

「危機において信頼を築く」 IC オンラインセミナーシリーズ 2020 年 4 月 16 日

スピーカー ラジモハン・ガンジー氏(国際ナショナル IofC 協会元会長)を紹介するスレッシュ・バジラニ氏 (国際ナショナル IofC 協会現会長) のメッセージ (訳:中島 信子)

コロナウイルス感染拡大防止のため、多くの方が自宅で孤立状態にいる時に、グローバルネットワークのセミナーで皆様と繋がりお話しできることは嬉しく思います。今回のセミナーで、ラジモハン・ガンジー氏を紹介させていただくことを仰せつかりました。

ラジモハン・ガンジー氏は伝記作家、歴史研究学者、政治評論家、平和の創造者、人権擁護の闘士であり、優れた教育者。私が初めて彼に出会ったのは、「次世代リーダーシップの資質の向上」と題する研修会で、当時の若い世代として幸運にも彼の指導を 5~6 年受けました。マハトマ・ガンジー翁の直系の二人の孫の内の一人。妻、子供、孫は健在。私は彼をこの 50 年知っているが彼ほど秀でた人は知りません。この危機の時期に「危機において信頼を築く—人類愛の維持」のテーマでお話しをさせていただきます。

この時期が如何に不確実な時代か、皆が知っています。しかし、これがどのくらい続くのか、将来どうなるか誰も分かりません。私は技術を信奉するものの一人として、月へ行くことも宇宙へ飛ぶことも想像はできますが、コロナ禍の中、これから一か月先どうなるか、答えることは出来ません。今こそ、人類の最善の部分を目の当りにする時であり、同時に最悪の部分も目に飛び込んでくる時代で、不幸にもその両方を見なければなりません。例えば、今日ある病院でコロナ感染者のために日夜働く医師である友人から電話がありました。彼の隣人は「あなたが来ると感染するから、家に来ないでくれ。」と言われたと云うのです。このようなことがある一方で、自ら外に出て、貧し人々に食事を与えようとする人もいます。インドでは 3 億人が収入ゼロの生活をしています。そのような人々のため食事を作る人もいます。これこそ、人間の善の部分です。この混乱の時期に、今こそ、私たちは自分の役割は何か、どのように貢献できるかを考える時だと思えます。

ラジモハン ガンジー氏が彼の考えをお話しさせていただきます。